

オランダ自転車市況-2012

1. 全体の販売動向

RAI(オランダ車輛工業会)、BOVAG(オランダ自動車自転車商業組合)によると、長引く欧州危機による景気低迷と、それに伴う消費者の購買意欲の低下により、2012年のオランダ自転車市場の新車販売台数は、前年比13.3%減の103.9万台となり、過去5年間減少を続ける中でも一層の落ち込みを見せた。販売金額についても、2012年は75,400万ユーロの前年比14.2%減となり、販売台数と同様に2012年は大幅に落ち込んだ。

販売台数、金額共に厳しい数値となった一方で、国内生産台数については、前年と同じ120万台を維持し、ここ4年間、同じ数量で推移している。消費者が新車の代わりに中古車を購入する、もしくは自分が現在所有している自転車を修理、補修するため、部品・付属品の購入にとどめるといった傾向がここ数年続いてきたが、2012年はその傾向が更に顕著となったとみられる。

表1: 自転車販売台数及び金額

年	2008	2009	2010	2011	2012
販売台数(万台)	133.7	128.1	121.5	119.8	103.9
販売金額(万ユーロ)	90,635	92,992	88,434	87,924	75,400

表2: 自転車生産台数 (単位:万台)

年	2008	2009	2010	2011	2012
生産台数	112.9	120	120	120	120

新車販売台数が年々減少を続けるなかでも、単価の高い電動アシスト自転車(EPAC)の販売の堅調に支えられ、2011年までは上昇を続けてきた平均販売価格であったが、2012年には自転車販売業全体で前年比2.8%減の725ユーロ(89,900円)と前年より減少に転じた。また更なる高額な平均販売価格である自転車小売専門店では、同比0.6%減の954ユーロ(118,296円)と前年より僅かながら減少し、EPACが全体の不振をカバーする従来のような結果には至らなかった。

表 3: 平均販売価格 (単位:ユーロ)

年	2008	2009	2010	2011	2012
平均販売価格(全体)	678	726	728	746	725
平均販売価格(自転車小売専門店)	782	861	920	960	954

2. 業態別、価格帯別販売動向

業態別売上比率では、自転車小売専門店は前年より2ポイント減じて67%となり、量販店、スーパーなどは前年より2ポイント増の33%となった。かつては自転車小売専門店の売上比率は75%前後を維持してきたが、2011年以降は7割の大台を割り込み、シェアの下落傾向が続いている。しかしながら、オランダの消費者は品質やサービスを重視して自転車小売専門店での購入を希望する傾向は依然として強く、特にEPAC購入の際は、それが顕著となり、安価な輸入車よりも自国ブランド車が好まれているとみられる。

価格帯別売上比率では、300ユーロ(37,200円)以下の低価格帯が前年同様であったが、それに次ぐ301~499ユーロ(37,324~61,876円)の価格帯は一気に7ポイントも減少し、低価格帯の比率の減少傾向は続いている。中間の価格帯500~699ユーロ(62,000~86,676円)は昨年より3ポイント増加し、高価格帯700~899ユーロ(86,800~111,476円)は1ポイントの減少にとどまった。更に最高価格帯900ユーロ(111,600円)以上は昨年より5ポイント増と大きく上昇した。販売不振とはいえ、平均単価の高いEPACの販売は一定量を占めており、そのため中・高価格帯の売上比率は増加し、全般的に販売価格帯を押し上げる動きは2012年にも見られた。

表 4: 業態別売上比率

販売形態	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
自転車小売専門店	74%	74%	73%	69%	67%
量販店、スーパーなど	26%	26%	27%	31%	33%

表 5: 価格帯別売上比率

価格帯(ユーロ)	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
300以下	27%	29%	25%	22%	22%
301~499	17%	18%	20%	18%	11%
500~699	15%	15%	14%	14%	17%
700~899	25%	19%	20%	21%	20%
900以上	16%	19%	21%	25%	30%

3. 車種別販売動向

車種別売上比率では、一般用自転車と子供車がそれぞれ前年より1ポイント減少した。オ

ランダで人気の高いシティ車(ダッチバイク)を含む一般用自転車が過半数を占めていることに変わりはない。また、ハイブリッド車(クロスバイク等)は前年同様であったが、年々減少を続けかつての勢いはない。その一方、電動アシスト自転車(EPAC)は前年より1ポイント増の16%となり、年々順調に比率を増やし、一般用自転車に次ぐ第2位の地位を固めた。

EPACの2012年販売台数は前年比3.9%減の17.1万台となり、唯一、販売が好調とされてきたEPACの販売台数も2012年には減少に転じた。同車種の2012年平均販売価格は1,812ユーロ(224,688円)であり、前年比5.5%減となった。しかしながら、RAIでは上述のように、消費者は廉価車よりも高品質の自国ブランド車を希望する傾向が根強く、同国の自転車市場全体では前年より1割以上も落ち込みをみせた点と比べれば、EPAC販売の減少率は僅かであり、EPAC販売についてはまだまだ底堅いとしている。

表 6: 車種別売上比率

車種	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
一般用自転車	50%	49%	53%	53%	52%
ハイブリッド車	17%	16%	10%	9%	9%
子供車	14%	13%	14%	14%	13%
電動アシスト自転車	10%	12%	14%	15%	16%
その他 ※	9%	10%	9%	9%	10%

※その他にはMTB/ATB、ロードレーサー及び折りたたみ車が含まれる

表 7: 電動アシスト自転車販売台数 (単位:万台)

年	2008	2009	2010	2011	2012
電動アシスト車販売台数	13.4	15.3	16.6	17.8	17.1

4. 今後の見通し

欧州危機の影響に苦しむ南欧地域に比べて、ドイツと並び比較的堅調と見られてきたオランダ自転車市場であったが、2012年にはその影響が具体的に数値として現れ始めた。欧州のEPACブームの先駆けとして2011年まで増加を続けてきたEPAC販売に関しても2012年は停滞した。

2013年の同国自転車市場の見通しについては、このように先行き不透明感から、今後の予測は難しいとRAIは述べている。一般自転車の販売不振をEPAC販売でカバーするという従来の楽観的な見方はもはやできないものの、同国の自転車利用頻度の高さから、自転車関連商品全般の急速な需要の落ち込みも考えにくく、新車販売は不振となっても修理補修のための部品・付属品等の販売は底堅いのではないかとしている。

以上

統計出所: RAI/BOVAG